

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームはまなす**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に「地域の方々と共に、ゆっくり一緒に楽しく豊かに」という理念を掲示し、地域密着サービスの意義を職員全員が理解し、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスを展開している。	理念は事務所とリビングに掲示してあり、職員間でのミーティング・申し送りでも周知している。職員は理念を念頭に置き実践に繋げている。その他、事務所内には独自の教訓「日常生活の中でより快適に生活するために求め行う介護を目指す」やリスクマネジメント委員会の「当たり前のことをちゃんとする」ハマナス五訓が掲示してある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭には自治会の方々が多数参加される。自治会加入し、地域清掃、忘年会、祭りに準備から参加。GH新聞をご家族に定期的に配布し、地域の皆さんに閲覧板でお知らせしている。	自治会に加入。グループ新聞を回覧し地域との連携を大切にしている。地域の行事には入居者と出来る限り参加するように努めている。入居者と馴染みの店で毎日の買い物をする事で日常的に地域のひとと話したり交流が行われている。また、毎年、忘年会お祭り等に参加、施設行事にも参加してもらおう等、常に開かれた環境となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公園、公民館のゴミ拾いをし、活動的に行動し、地域高齢者の活動意欲を啓発している。ひばりやすらぎ会への参加など地域の高齢者の方々とのふれあい、お互いに知る機会を増やしている。外出の機会を多く持つことで地域の方々に助けを頂き、認知症を知って頂く機会となっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、町役場、地域包括支援センター、民生・福祉委員等の方々に参加して頂き、入居者様の活動状況、評価への取り組み状況を報告し、貴重な意見を頂いている。意見交換や交流の場になりサービス向上につなげている。認知症の相談の場になるように声かけしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に第2木曜日14時～定期的に開催し、自治会長や町の介護保険課担当、地域包括支援センター、民生委員等、施設側として、管理者、リーダー等が参加し、事業所の状況報告や入居者の普段の生活の様子や活動内容をスライドで報告する時もある。9月の会議では、災害時避難訓練を一緒に行った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター担当者にGHの困難事例の相談をしたり、サービス担当者会議に参加していただくこともある。在宅での独居生活が困難な方の相談を受けることもある。お互いに情報共有や相談している。	運営推進会議に出席する介護保険担当とは顔なじみの関係が出来ており、地域包括支援センターとも連携し、重度認知症の入居者や困難事例に関する相談・報告・情報交換を話し合い、問題解決に繋がる様に努め、解決に繋がったケースも有る。常に協力体制が出来ており、相互の連携が密に図られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より拘束によるダメージを周知徹底し、拘束は行っていない。玄関にドアベルをつけ、鍵をかけることはない。職員は入所者様が外へ出て行かれるときも一緒に行動している。入居者様が自身の想いを言いやすい雰囲気づくりや1人ひとり性格や行動を把握し対応をしている。	身体拘束に対し職員の理解がしっかりできており玄関の施錠はしていない。外出したがる入居者に対しては行動を共にし、意向により添う関係ができていく。認知症状が重度化した場合は、家族と相談の上、入居者に合った隣接する施設に変更し落ち着いた生活が送れるように配慮している。スピーチロックは職員間で意識づけして行わないようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、ケアで迷う時やつらい時は、申し送り時に一人で抱えずにお互いに、相談しあうようにしている。ひやり、はつとシートに記入し、少しの変化に大勢の目で気づけるようにしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご本人の権利を代弁している意識を常に持ち、迷ったら「〇さんならどうしたいと思っているかな」と考えたり、ご家族に相談している。勉強会を通して、権利擁護の知識を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に十分な説明を行い、理解・納得の上で同意をいただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口・第三者の窓口は、重要事項説明書に記載している。契約時に口頭で説明もしている。意見・苦情には、迅速な対応をしサービス改善に努めている。ホーム玄関に意見箱の設置をし、面会時声をかけるようにしている。	玄関に意見箱を設置しているが投書がなく、家族とは面会時に必ず声掛けし、入居者の現状を伝える等コミュニケーションをしっかりと図っている。入居者・家族が言い易い環境を作りながら、意見等があった場合は速やかに改善や運営に活かせるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームはまなす**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の仕事に大変さを感じ、ミーティングや申し送りノートにて業務改善の話し合いをしている。毎週の検討会に参加し、入居者様の対応で心配なことを相談している。入居者様にとって、必要なことは迅速に変更し、管理者への相談、報告、全職員が統一した対応に心がけている。	毎月行われている介護ミーティングや各種委員会・研修等において出された意見は業務改善として反映している。内容的には勤務体制や掃除等の環境整備についての意見があった。毎日の職務の中で、その都度、意見や提案に対して、相談しながら対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に働きやすい職場を目指し、声掛けを実施。相談に対し、互いに思いやりをもち、悩みや困り事など管理者を含め、都度、迅速な話し合いを実施。年2回全職員との面談機会を設けている。敷地内に保育園があり、子育て中の職員の支援や働く時間帯の相談など協力ができている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県GH協会に加盟し、研修、勉強会に参加。学習委員を中心に月1回勉強会を実施。参考になる書籍をおき、読めるようにしている。研修に参加した職員は、研修報告をだし勉強会にて報告し、他職員に伝達している。GH大会へ参加し事例発表を行い、日々の取り組みの振り返りも行った。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修等に参加し、業務上の悩みを話し合っている。年末のご家族との大掃除など、他ホームが実践しているよい例を、取り入れている。他でのターミナルケアの様子も教えていただき情報交換している。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入居前には訪問調査を行い、入居者様の状態の把握と不安や悩み、要望の聞き取りをしている。入居前の担当介護支援専門員や地域包括支援センターより情報を聞き取るようにしている。入居前にご家族とお茶飲みにきていただいている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず入居前には訪問調査を行い、入居者様とともにご家族の不安や悩み、要望の聞き取りをしている。家族構成、生活歴等をふまえて対応している。入居前にご家族とお茶飲みにきていただいている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの情報をもとに見極め支援している。GHの説明を十分に行い、入居前には、実際に見学に来ていただき、お茶飲みをしたり、雰囲気を知っていただくようにしている。必要時には、地域包括支援センターや併設老健の相談員に相談している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の立場となり考え、先回りしすぎず、入所者様のペースで生活できるよう支援している。食事作りや漬物作り、外出、買物、家事を入居者様とともに調理方法や味付け等を教えていただいている。畑の野菜の収穫で農業をされていた方に教えていただいている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の持っている悩み、不安を共有し、入所者様と一緒に支えていく関係を築いている。特に、行事、大掃除と一緒に参加していただくことで、共有できる機会をつくるようにしている。写真をたくさん取り個人ごとにアルバムを作成し、ご家族から「日々の様子が心配」との声が聞かれた時などアルバムを利用している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の大切な人とのふれあいとして家族交流会や納涼祭等に参加いただき、家族と一緒に食事をし交流していただいている。入居者様の自宅や行きたい場所への外出支援をしている。地域の方と会う機会をもっている。	年1回年末に行われる家族交流会には入居者全家族が参加している。掃除や食事をしながら交流を目的としている。また、普段の生活の中に、家族に協力を得て自宅に一時帰宅、馴染みの店に買物、神社にお参りに行く等馴染みの関係継続の支援に努めている。その都度、地域の人との交流が持てる環境が出来ている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームはまなす**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の一人ひとりの性格を把握し、職員が中間役となり、入居者様全員で楽しく話したり、けんかしたり、支えあい生活出来るよう支援している。気の合う方同士、居室で話をされたり、愚痴をこぼしたり、体調が悪い時は声かけに行っ下さる。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ホームに遊びに来ていただいたり、近況報告をしている。入居者様が会いに出かけることもある。近くに来たからと、近況や、自身の介護体験を話しに来てくださるご家族もいる。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で意向の把握や日々の生活リズムの把握に努め、ケアに活かしている。また、良い表情をされていたり、喜ばれていることを一人ひとり把握し、職員間で申し送りをし、その方にとって一番良い方法を常に話し合い実践している。	入居者本人の訴えに対して、理解できない場合はご家族が来訪された時に一緒になって意向を受け止めるようにしている。また、生活している中で不定愁訴があった場合も、安定していただくような関わりを持ちながら支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に訪問調査し、ご本人、ご家族から情報を得ている。面会時に状況報告すると、「そういえば…」と在宅でのことを教えていただき、ホームでの生活に取り入れている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居される前に訪問調査して、入居者様一人ひとりの状態を把握している。こだわりや思いの強い部分へは、職員が同じ対応できるように日々の申し送りを大切にしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族の要望を聞き取り、アセスメントやモニタリングを行っている。また、介護ミーティングにおいて意見交換し作成している。状態変化時に見直しを行っている。	入居される前と入居時に入居者本人とご家族からアセスメントを行い暫定プランの作成を行っている。日々の観察・記録からアセスメント・モニタリングを行ない3ヶ月後に本プラン作成し、3か月毎に短期目標の見直しをしている。モニタリングはフロアミーティングで生活状況の確認しながらプランに沿った支援に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事や状態は、毎日具体的にカルテや申し送り表に記入している。また、ヒヤリ・はっとシートにも記入し介護計画に反映している。申し送りにて日々の変化を詳しく把握し、情報の共有・実践・介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設と協力し合い、柔軟な対応をしている。GHだからと、とらわれずに、何がこの方に必要かをみていくようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族交流会や納涼祭等を企画することにより、多方面のボランティアの方々やご家族、近隣住民に参加していただいている。日常的に近隣施設等も利用している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望される医療機関へ受診されている。ご家族が対応できないときは、事業者が受診支援し、ご家族と情報の共有に努めている。体調不良時は併設施設の医師や看護師に報告しみてもらい、対応やご家族への連絡をしている。	ご本人、ご家族が希望される医療機関受診者は2名いる。他の入居者は併設のクリニックの受診をしている。受診の際は受診連絡票を使用し医師との連携が図られている。体調不良時や緊急時はその都度家族と相談し対応。併設の老健の看護師の支援を得ることが出来、スムーズに連携が取れ、ご家族の安心に繋がっている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームはまなす**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師の協力が得られている。1日1回は入居者様の健康状態のチェックに来てもらっている。また、夜間帯もすぐに相談でき対応できる状況にある。看護師より民間療法(家でできること)の指導も受け取り入れている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医やご家族に話しを聞き、連携を図っている。入院した場合は、すぐ様子をみに行き病院関係者と協力し合っている。ご本人の経過の把握や元気づけるため定期的に入居者の方と共に面会もやっている。その都度、ご家族へ連絡している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご本人、ご家族の意向を聞き、かかりつけ医、併設老健の医師等と連携を取っている。カンファレンス、ミーティングを随時行っており、入居者様の状況確認をしながらチームの連携を図り支援を行っている。日々のケアの延長として併設老健と協力し看取りケアの支援もしている。	入居する際に契約書に記載してある看取りに関する説明を行い、入居者、ご家族の意向を聞くようにしている。職員は看取りの研修を受けており、今までの看取りの経験を活かして対応することができる。看取りに際しては、併設の老健の医師、看護師が医療的ケアを行うが、介護職員とも連携し、ミーティングやカンファレンスで十分周知しいながら支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会により応急手当を出来るようにしている。事故発生時の連絡方法も周知、掲示している。運営推進会議にて消防署の協力を得て毎年、AEDの使用等の指導を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をしている。町の消防署の協力や運営推進会議でも協力をお願いしている。	避難訓練を消防署や他施設と一緒に年1回行っている。消防署への通報訓練も年2回行っている。各居室の入り口に「車椅子、独歩」等の表示がしてあり避難誘導の際の参考となるようにしている。今年は運営推進会議の出席者と一緒に防災訓練を実施し、地域との協力体制がとれる訓練を行うことができた。	年間防災計画として、夜勤者向けの災害を想定した避難訓練が行われていない。入居者の安全の為に夜勤者が災害時に速やかに避難誘導出来るように夜間を想定した訓練の実施・工夫を期待したい。また、災害時に地域の協力が得られる様、地域消防団との連携を図ることを期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりに合わせた対応をし、入居者様の快い生活を求めて介護に従事している。個人情報の取り扱いには十分配慮している。自尊心を大切に声かけをしている。	入居者のプライバシーを尊重した接遇や一人ひとりに合った言葉かけを心掛けている。また、個人ファイル等の情報は外部に漏れないように管理してある。トイレのドアが入居者が開閉しづらい状況であることからプライバシー保護の為、カーテンに取り替え対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立は入居者様に食べたい物を伺ったり、買物時希望する食材があれば献立に取り入れている。買物時、個人のおごづかいで食べたいものも購入する方もいる。希望時、外出するなど入居者様の自己決定を大切にしている。職員から提案し入居者様の気持ちを汲み取るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで仕事をするのではなく、入居者様の立場となり考え、入居者様のペースで生活できるよう支援している。タイムテーブルはなく一人ひとりの生活のペース(入浴や散歩や昼寝)を把握するようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望を第一に、個性を大切に支援。一人ひとりに合わせ好きな服やエプロンなどを勧めている。理容室へは希望で外出し、馴染みの美容師さんが定期的に出張しホームでカットされる方もいる。お化粧する方は必要なことを介助し、おしゃれを楽しんでいただくようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来ること、好きなことを考慮し、季節感を取り入れ、一緒に調理、準備、片付け、畑の野菜収穫を実施。一緒に楽しく召し上がれるようにしている。誕生日にケーキや好物を献立に取り入れている。個々に合わせた食形態で提供し、嚥下困難な方は注意し食事介助をしている。	食材の買物と調理を入居者と職員と一緒に、入居者は野菜を刻んだり、盛り付けも行っている。畑作業で季節の野菜を作り食材に活かしている。献立は立ててあるが、店に行くと入居者の意見で旬の食材を取り入れたりして献立の変更がある。好みで刺身などの生ものを毎週食べたり楽しんで食事をしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームはまなす**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の管理栄養士に相談し、水分摂取はこまめに職員が働きかけ、摂取量の少ない入居者様には声かけ、介助している。日頃より水分摂取の大切さを入居者様に話している。嚥下の困難な方にはOs1ゼリー対応。10時、15時には果物や水分等を勧めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、フロアー洗面所で入居者様に合わせた口腔ケア、舌のケアを実施。眠前に義歯洗浄の声かけ、介助を実施。風邪予防になると必要性も話している。併設老健の言語聴覚士や歯科衛生士に相談し、必要時は口腔内をみてもらう。嚥下体操、歌を実地。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合ったリハビリパンツやバットを使い分け、ご自分でトイレに行くことの少ない方には、自立に向けトイレ誘導を実施。トイレ動作がわからない時も水分を促し、失敗しても傷つかないように対応。随時、下着交換を介助し、更衣動作可能な方は居室にカゴをおき、汚れ物を入れていただいている。	排泄チェック、誘導によりバットの必要がなくなった入居者がいる。布パンツ使用が2名、リハビリパンツ使用が6名、オムツ使用者が1名となっている。夜間のポータブルトイレ使用者が2名いる。本人の訴えを察してトイレに誘導したり、外出の前後で排泄を済ませることにより失敗をしなくなった方がいる。自立に向けた支援が行われている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防とし、毎朝は牛乳、お風呂上りや散歩後などは適時ヤクルトを飲んでいただいている。また、可能な限り散歩へ行っている。便秘予防のメニュー(サツマイモ、バナナ、果物)を配慮している。水分を多くとるようにしている。主治医へ相談し服薬されている方もいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入れるようになっている。利用者の好む時間帯や間隔や温度を把握して声かけている。入浴好きな方は毎日、苦手の方は声かけし、気持ちよく入っていたけようにしている。それぞれの好きな入浴剤を使用している。	毎日入浴できるように準備してある。入居者の希望で夕方集中する時は曜日を変えて入浴する時がある。概ね3/W入浴できている。入浴拒否の方がいたが、現在は問題なく入浴出来ている。入居者の希望で入浴剤や石鹸の持参したものを使用している。プライバシーに配慮した支援が行われている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の健康状態、生活リズムに気をつけ、休息が取れるようしている。夜眠れない入居者様には、日中の活動や日光浴を増やし生活リズムが出来るようにしている。天気の良い日に布団干したり、寒さがある方には、湯たんぽや電気毛布を使用、居間では量やこたつで休めるよう環境作りしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりの薬説明書をカルテにはさみ、すぐに確認が出来、理解できるようにしている。薬への依存の強い方は、主治医に相談し、プラセボ薬を服用し安心できるような声かけをしている。薬変更時はご家族と情報共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居される前に生活歴の情報を得て、好きなこと、得意なことを活かした出番を見い出せるような場面作りの支援をしている(家事、外出)。季節に合ったイベントや料理を取り入れ、今を楽しみ感じていただくようにしている。情報を共有し日々、一人ひとりの今を知ることにも努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩、日光浴、ゴミ捨て、洗濯物干し、散髪に出かけて日々の中で外に出ることを当たり前に行っている。入居者様の希望する所に可能な限り出かけている。自宅に外出付添いしたり、馴染みの場所(初詣、お祭り)に外出している。ご家族とともに出かける機会を作っている。	入居者に外出希望を聞いてドライブをしている。日常生活で行われている買物やゴミ捨て、美容院には臨機応変に出掛けしている。その他に月一回の自治会で行っている清掃作業には入居者代表と職員が参加している。事業所のお祭りの8月納涼祭、9月船津例大祭は必ず参加するなど外食の機会が多い。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご家族の希望もあり職員が行っているが、買物時に入居者様から支払ってもらう等の支援をしている。お金を持ちたいと希望される方には、ご家族の了解を得て、一定の金額を自己管理していただいている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームはまなす**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より電話をかけたり、手紙を出したいと希望のある時は、その都度支援している。不安な時は、ご家族の声をきき安心されている。手紙が届いた際にはご本人に返事を書いていただき、手紙のやり取りをされている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場はカーテンやエアコンにて温度調整し、冬場は石油ストーブを出すなど、居心地良く家庭的な雰囲気づくりを心がけている。食事テーブルとソファの位置を季節ごとに模様替えし入居者様にあった席を工夫している。玄関や居間など季節折々の花を飾り季節感を取り入れている。また、行事の飾りをし皆さん楽しんでいただけるようにしている。	玄関には出入りが察知できるように、ベルが鳴る様にしてある。壁には利用者の生活の様子や外出を楽しむ写真が展示してある。また、季節の花が活けてある陽当りの良いリビングでは畳敷の区画があり、100歳の入居者が休んでいる時は他の入居者が見守りをしてくれることも有る。トイレの戸は開き戸からカーテンに変え、利用者が出入し易く、見守りも出来るように工夫してある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間はソファで、自由な時間を過ごすことが出来る。玄関先のポーチ部分や二階廊下に、椅子を置き、入居者様の団欒の場となっている。畳部分は昼寝やくつろぎの場と共に、体調不良で点滴をしたり、看取り時に布団をひき、すぐにそばでさみしい思いをさせないように対応する場となっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた愛用品を持ち込んでいただくようにして、ご本人とご家族で居室の配置をしていただいている。また、必要なものはその都度用意して頂いているので、入居者様は安心して過ごされている。	居室はフローリングか和室となっていて、ベッドや家具、生活必需品はすべて入居者が馴染みの物を持ち込み家族と一緒に相談しながら配置され、安心した生活ができる居心地の良さが感じられる。また、居室入り口には手作りの表札や家族写真・猫の絵が飾られており心を和ませてくれる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの要所には手すりが設置してある。流し台は、作業しやすいように低くなっている。立ったまま靴を履くことが困難な入居者様が多いので、玄関に椅子を置いている。浴槽内にも転倒防止のため、滑り止めマットを敷いている。立ち上がりの困難な方には、浴槽内の椅子を使用している。			